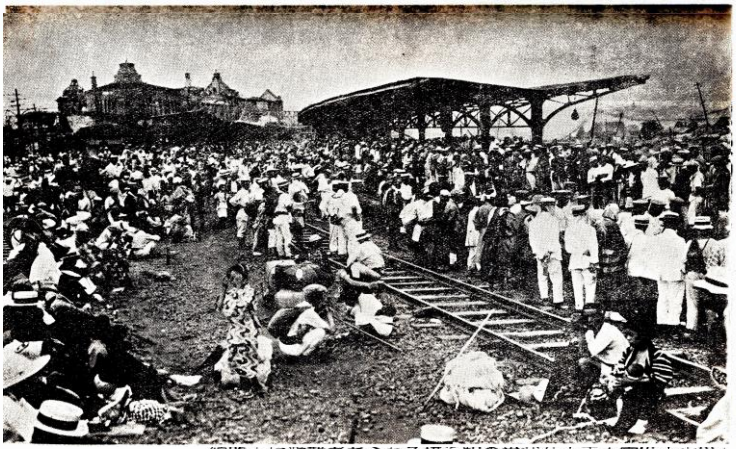
鉄道150年

JR桜木町駅を出て関内方向ガード脇に立つ創業記念の碑

今年は鉄道開業150周年――1872(明治5)年6月12日(旧暦5月7日)、横浜ー品川間に蒸気機関車が初めて客を乗せて走った。始発の横浜停車場、いまの桜木町駅構内に「鉄道創業の地　記念碑」が立ち、品川高輪口に「品川駅創業記念碑」がある。同駅1番線ホームにも「鉄道発祥の地」パネルが埋め込まれている。高輪築堤の工事遅れで4カ月後の10月14日に新橋まで延伸して全線開通、この日を「鉄道の日」と定めた。終点の新橋停車場だった汐留駅跡地に駅舎とプラットホーム、線路の一部を再現し鉄道歴史展示室として公開中だ。鉄道事始めに実は長崎説もある。65(慶応元)年、英国人グラバーが商談PRで長崎市の海岸通りに数百メートルの線路を敷き英国製の蒸気機関車を走らせた。石碑「我が国鉄道発祥の地」横の説明板に「発祥の地跡」とある。横浜、品川の「創業」に譲る形で「跡」が付く。

明治、大正時代に鉄道網が全国に展開し、1915(大正4)年に幹線の東海道線の利便のため、現横浜駅に近いメトロ・高島町駅前に新駅(2代目横浜駅)を華やかに開業したが、わずか8年後の9月1日関東大震災で崩壊炎上した。来年は大震災100年。みなとみらいの横浜都市発展記念館は企画展「激震、鉄道を襲う！」を今年3月から7月3日まで開催。復旧に携わった鉄道技師が残した写真を中心に、鉄道災害の衝撃から復興の姿を改めて目の当たりにする。



線路上に避難者あふれる横浜駅の惨状(「大正大震災大火災」1923年10月1日大日本雄辯會講談社発行)＝所蔵：林　荘祐

横浜市歴史博物館(横浜メトロのセンター北駅下車)は企画展「みんなでつなげる鉄道150年 ー鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わりー」を3月から9月25日まで開催。横浜を走るJR東日本、東海、貨物3社、東急、相鉄、京急、みなとみらい、横浜市交通局、横浜シーサイドライン(新交通)、神奈川臨海鉄道(貨物)10社の歩みや、50年前に廃止された横浜市電の再現ジオラマの展示がある。東京駅構内の東京ステーションギャラリーは「鉄道と美術の150年」展を今秋10月に開く。さいたまの鉄道博物館は、鉄道開業から系統立てて実物の機関車、車両など貴重な展示物が並ぶ体感型博物館で人気を集めるなど全国各地で鉄道の足跡と役割が紹介される。いま鉄道の利用はローカル線で学生や高齢者の乗客が目立ち、鉄道は生活路線と言いながら、並行する高速道路建設が進んで働き盛り世代は車の利用に走る。廃止路線相次ぐ経営は深刻だが、日本の発展を支えた鉄道の役割は大きく重い。発祥の地を巡り150年の歴史をたどり将来展望のレールを延ばしていきたい。

横浜市歴史博物館・特別展ポスター

文・写真　林　荘祐

JR品川駅1番線、山手線東京方面ホームの発祥の地パネル

再現された旧新橋停車場のプラットホーム、線路の一部と駅舎